

# 沼袋駅周辺 まちづくり新聞

NUMABUKURO EKISHUHEN MACHIDUKURI SHINBUN

vol.2

AUG-2004

発行：沼袋駅周辺まちづくり勉強会

編集協力：早稲田大学

都市・地域研究所

## 沼袋通信

No. 2

Date. '04.10.05

おかげさまで、今年度に入ってから沼袋駅周辺まちづくり勉強会が活動を始めて、半年が経過しました。

前号でお知らせしたように、初めの3か月は、現状の把握をしたり、20年後の将来像を考えることで沼袋の魅力と課題を確認しました。それをうけて7、8、9月の勉強会では、他地区の事例を学び、沼袋に当てはめて検討をしてきました。

半年間、活動を続けてきて感じることは、沼袋はこれからどのようにでも変化していくということです。話し合いを進める中で、立体交差化が行われるということは、踏切が無くなるだけでなく、もっと広い沼袋全体に影響を及ぼしていくことを実感しています。

いろいろな立場の人の生活から、まちを見直し、話し合い、共に将来の沼袋について考えていきたいと考えていますので、みなさんどんどん勉強会に参加して下さい。そして、一緒に沼袋の将来について考えましょう。

沼袋勉強会代表 小林交成

## 沼袋駅周辺まちづくり勉強会 スケジュール

沼袋駅周辺まちづくり勉強会発足

### 他地区の事例

他地区の事例を見てみよう

実際に立体交差化事業を行った場所を沼袋に当てはめてみたり、商店街、駐輪場の先進事例を検討したりすることで、規模やイメージをふくらましていきます。

### 駅 周辺

駅と周辺のことを考えよう

将来の駅や鉄道敷と、駅周辺の施設や交通ネットワークについて具体的に考えることで、相互のつながりや関係を考えていきます。

### 自由討論

これからの課題を整理しよう

8月の勉強会の意見をふまえたモデルを参考に、これからもっと検討しなければならない課題がなにかを整理しました。

10月

丸山塚祭りでの発表

上半期の成果をモデルやパネルで紹介し、幅広い住民のみなさんに伝えたいと考えています。

～これからの活動～

11月

12月

1月

### まち 交通

交通ネットワークの検討

交通ネットワークの現状、課題を整理し、まち全体にどのような影響を与えているかを考えていきます。その上で、駅と周辺の将来像をもう一度検討していきます。

2月

3月

### まとめ

一年のまとめと報告

一年間の活動を振り返り、まとめと報告を行います。また、来年度に向けた目標や課題の整理をしていきます。

まだまだ活動は続く・・・

月に1度ずつ沼袋地域センターで行っている勉強会も、今年度に入り6回を数えました。新聞第1号で、4、5、6月の活動を紹介したので、今月号では7、8、9月の活動を中心に紹介していきたいと考えています。

7月は、他地区の事例を学びました。駅舎はもちろんのこと、線路跡地や商店街についての先進事例や、どのようなプロセスでまちづくりが進んだかについても知ることが出来ました。8月は、様々な整備方法やイメージの中からどれが沼袋に合うかを考え、それぞれがどのようにつながりあっているかを検討しました。9月は、8月の意見をふまえて作成した2つの将来の沼袋駅のモデルを参考にしながら、今後さらに検討していかなくてはならないことを整理しました。

駅、線路跡地、商店街、交通・・・様々なものが複雑に絡み合ってまちが成り立っていることを知る3か月でした。

今後は、一度交通の視点からまちを見直し、その後もう一度、駅と周辺の将来像を検討していきます。他にも、小学生と一緒にワークショップをしたり、駅前商店街の空き店舗における展示を考えています。ぜひ、みなさんの貴重な意見を聞かせてください。

# 0.4

目的：地下化にこだわらず、沼袋のこれからを考えていく上で参考になりそうなまちづくりの事例を、ソフト・ハードに関わらず見ていきます。

## STEP 1

鉄道が地下化や高架化した駅の事例を見ました。駅のみでなく、大和駅の線路敷跡地の活用例や横浜の元町商店街の整備事例についても学びました。



## こんな議論がされました

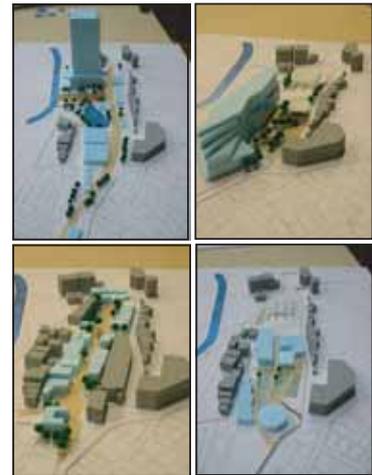
- ・ハード整備とソフトの対策を組み合わせることの可能性。
- ・駅だけではなく周辺の整備も考えていく必要がある。
- ・将来の駅舎の高さや規模について。など。。。

## STEP 2

駅の整備として考えられるいろいろなタイプのスタディ模型を見ながら、将来の駅舎について議論しました。

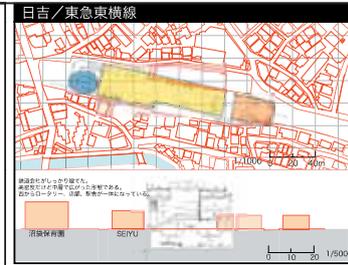


## スタディ模型の例



## STEP 3

他地区の駅のサイズを沼袋に当てはめることで、立体交差化によって出現する線路跡地のスケールがどれくらいかを検討しました。



# 0.5

目的：将来の駅や鉄道敷と駅周辺の施設や交通のネットワークについて、より具体的な空間像を考えます。

## STEP 1

2グループに分かれた上で、それぞれの班の中で「店主」「お年寄り」「子供を持つ女性」「サラリーマン・学生」「来訪者」という5つの役割分担をくじで決めました。



## STEP 4

グループ毎に共有できた意見、今後さらに検討が必要なことを整理し、最後にグループの代表者が、皆の前で議論のまとめを発表しました。

## STEP 2

それぞれの役の視点から、まち全体の目標イメージ、「沼袋駅」「駅前商店街」「線路跡地」への目標イメージや優先したい交通手段を考え、一人ずつ発表し地図の上に貼っていきました。



## こんな議論がされました

- ・駅や周辺の整備イメージについて
- ・駅、交通、商店街、線路跡地・・・の相互のつながりや関係について。など。。。

## STEP 3

スタディ模型からみんなで駅の将来イメージに近いものを選び、それをふまえて、駅の出入り口、商店街の整備、ロータリーの規模、線路跡地の利用等について検討を行いました。



成果品の例

# 06

目的：将来（立体交差事業後）の沼袋における生活をイメージし、沼袋の将来像や目標を考えます。

## STEP 1

8月の勉強会で話し合われたことをふまえて作成した、2つの将来の沼袋駅周辺の模型を見ながら、それぞれの案の背景となった話し合いをみんなで確認しました。



## STEP 2

案に修正を加えると共に、検討を行わなかった線路跡地の防火帯としての役割や、栄通り商店街について話し合いました。



## STEP 3

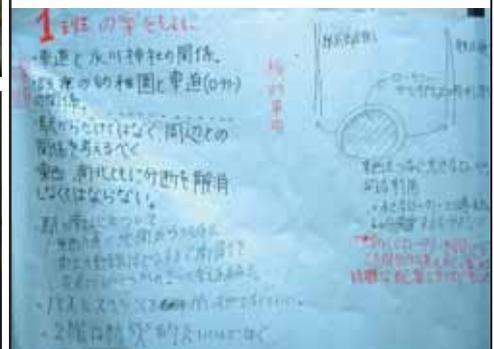
自由に話し合いを進める中で、今後さらに案を深めていくために、何を検討する必要があるのかを考えました。



## こんな議論がされました

- ・バス利用の現状や、これからの役割をどう捉えるか。
- ・もっと広い範囲から、交通ネットワークを考える必要性。
- ・今後多くの人の意見を集める方法。
- ・駅の東と西、北と南のつながり。
- ・駅施設と商店街の関係 など。。

## 成果品の例



## コラム・歴史地図から沼袋をみる 第2回

早稲田大学 津久井誠人

### ～西武新宿線の開通とその時代のまちの変化～

西武新宿線沼袋駅は1927年(昭和2年)4月17日に開設しました。沼袋に鉄道が走り、線路が敷かれた前後では、まちの様子はどのように変化したのでしょうか？駅がまちに与える影響がどれほどのことかを考察するにあたり、大正12年と昭和4年の地形図を見比べてみましょう。

他の年代の10年という期間に比べて、この間の約10年に沼袋は大きく変化しています。現在のおおまかな骨格もこの期間におおよそでき、沼袋の町の形成は昭和初期にあったと考えられます。クランク状であった駅前商店街通りがまっすぐ北方向へと伸び、また、朝日通りも南へと延びてきます。駅の開設に伴い、駅へと通じる南北方向の道に利便性が求められたからでしょうか。また同時に、朝日通りを軸とした建物の数の増加が見られます。このころは、駅ができることで、それにとまなう交通網として、南北へと道路ネットワークが確立し始めてきた時期といえるかもしれません。

また、妙正寺川沿いの水田が大幅になくなります。地図で見ると、線路ができたことで、かなりの水田がつぶれたということもあると思います。そのことと輸送機関が充実したことで、この地域の人の生活様式は変わった部分があると思われます。

現在、西武線の立体化が検討されており、もし線路が地上部分からなくなったならば、東西方向に長い敷地ができます。これが現在のまちに与える影響とは、どれほどのものなのでしょうか？人の生活様式は現代社会の中でさほど変わることはないかもしれませんが、人の歩き方、歩く道、寄り道や買い物の経路などが変化し、線路跡地だけではなく、まち全体にも影響はあると考えられます。

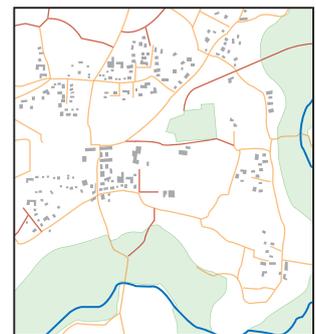


図1：大正12年地図

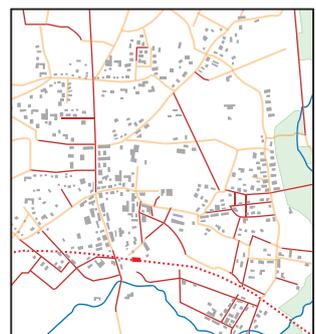


図2：昭和4年地図

凡例

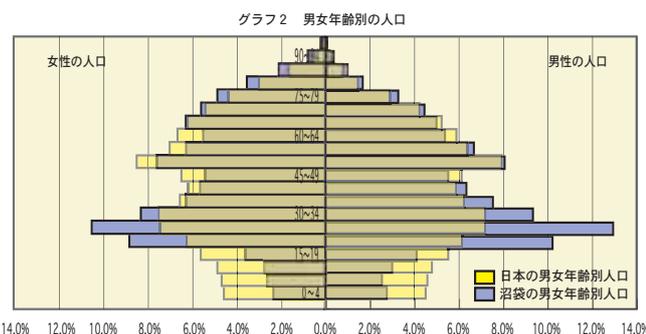
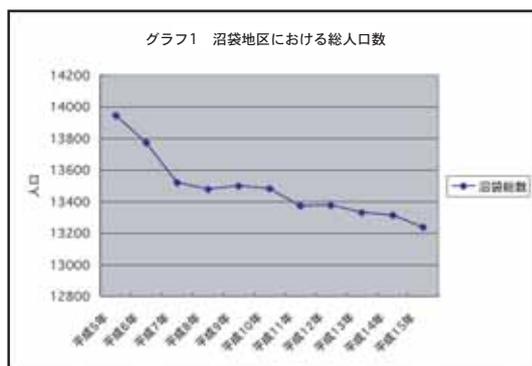
- 道
- 過去10年間で新設された道
- 線路

みなさんはお住まいになられているまちの変化をどれほど感じていますか？このコラムでは、日常的には意識する機会が少ない人口の推移のグラフを見ながら、沼袋地区の特徴とまちづくりの可能性についてお話したいと思います。

～沼袋の人口推移と人口ピラミッド～

まず、沼袋地区の人口推移と人口ピラミッドを見てみましょう。グラフ1は平成5年からの沼袋地区の人口推移を表しています。これを見ると、地区の人口が年々減少傾向にあることがわかります。

そしてグラフ2は沼袋地区の人口ピラミッドを日本全体のデータと重ねたもので、沼袋地区は特に少子高齢化が進んでいることが見てとれます。また、20代の人口が飛び抜けて多いことも特徴の一つです。これは、地区外から学生や働き初めの若者が入ってきていることの影響ではないでしょうか。しかし、若者は定住する人が少ないようです。一方で、沼袋地区を中野区全域と比較しても場合、居住期間が10年以下の住民の割合が少なく11年以上は多いという特徴を持っています。沼袋地区では、高齢者の定住意識が強いのでしょうか。



～沼袋町丁別の居住期間～

次に沼袋1～4丁目の町丁別の居住期間の表を見てみます。すると、沼袋1、3丁目には30年以上住んでいる人が多く、2、4丁目には、11～20年間住んでいる人が特に多いことがわかります。これらの違いは、宅地化した時期の違いや、その地区に多い建物の種類から影響を受けていると考えられます。一口に沼袋といっても、もっと細かい範囲によって特徴を持ち、これからの変化の経緯も少しずつ違っていくものと考えられます。



～地区の変化 そしてまちづくり～

ではそのことから、まちにどのような変化がおこると考えられるのでしょうか？

人口が減少し高齢化が進むと、一人暮らしをする高齢者のお宅や空き家が増えたり、空き家が更地となることでマンションやミニ個建てが増え、近隣の居住環境が変化したり、沼袋のまちは少しずつ動いていくでしょう。それに加えて、現在検討されている連立立体交差事業が実施されれば沼袋のまちは大きく変わります。なぜなら沼袋駅や線路跡地は、沼袋に住んでいる方の多くが利用するまちの中心となる場所だからです。沼袋に住む方々がまちの変化を敏感にキャッチし、どうするかをしっかりと考え、その変化を上手に受け入れていくことが大切です。

だからこそ、将来の沼袋駅や線路跡地の検討の際にまち全体としての対応、言い換えれば住んでいるみなさんの意見が求められます。多くの住民が積極的に意見交換をすることが、沼袋を良くする一番の近道かもしれません。

もし、みなさんの意見によって駅や線路跡地によりよい空間ができれば、週末を新しい駅で過ごしたり、子どもと一緒にのんびり散歩をしたり・・・といった今とは違う生活の1ページも実現できる新しい形の沼袋につながっていくのではないのでしょうか。

編集後記 ～おわりに～

史上空前の台風の当たり年。もううんざり！ワイワイまつりの直前まで、ハラハラどきどき。晴れて大勢の人が参加できますように！と願っていました。明日は、どうなるかなんて台風だけじゃなくて地震だって来るかもしれないじゃないですか！ましてや10年、20年後の沼袋の街がどんな姿になっているかなんて、誰もわからないですよええ。でも！みんなの意見で設計図を描けるとしたら？だれもが楽しく、安心できる街、私たちの要望で緑豊かで憩いの場ができるとしたら？そんな夢と希望を持って私は参加しています。

勉強会幹部 浅野 篤彦